

当館所蔵資料『方丈記絵巻』を紹介した『絵巻で読む方丈記』(株式会社東京美術出版)が2022年7月7日の「下野新聞」(24面)(下野新聞社発行)に「絵巻で読む方丈記」出版」と題し取り上げていただきました。

『絵巻で読む方丈記』は、全文の現代語訳、および解説を二松學舎大学非常勤講師田中幸江氏がご執筆されました。

『方丈記絵巻』は、訳注者の田中氏によると「近世以前作の『方丈記』の絵巻は他に例を見ず、大変貴重なもの」とのことです。

なお、2022年7月15日に放送されたTBSラジオ「たまむすび」の「TOKYOもん」コーナーにて三康図書館が特集された際にも、当館職員から『方丈記絵巻』を紹介させていただきました。

三康図書館では、『方丈記絵巻』をはじめ、所蔵資料の現物をどなたでもお手に取ってご覧になれますので、ご来館をお待ちしています。

今後、『方丈記絵巻』について、訳注者田中幸江氏による講演会を開催する予定です。

詳細が決まりましたらホームページやFacebook、Twitter、チラシでお知らせします。

「絵巻で読む方丈記」出版

さくら・大学講師田中さん

【さくら】金枝の二松学舎大非常勤講師田中幸江さんがこのほど、「絵巻で読む方丈記」を東京美術(東京)から出版した。現存する「方丈記絵巻」の全17図を用いながら、分かりやすさを追求した。方丈記には平安末期の天災や社会の混乱が

つづられており、田中さんは「新型コロナウイルスや戦争、自然災害などが多い現代で、生き方の指針となれば」と話している。

と、理想となる「終の栖」での暮らしが1万字程度で記述されている。江戸時代に書かれた方丈記絵巻は本文と絵画で構成され、全長約17図で構成され、全長約14メートル。三康図書館(東京都港区)に所蔵されている。田中さんの夫は普濟寺の高橋秀城住職で、2012年、恩師との共同研究で方丈記絵巻に出会った。真摯に書かれた絵に感銘し、世の閉塞時期に読み直せるものとしても「広く知ってほしい」と考えた。

る。文学博士の田中さんは



「絵巻で読む方丈記」を出版した田中さん

平安の天災や社会混乱 「生き方の指針に」

大学で教壇にも立っている。昨年著書を出した経験を生かし、妻の執筆を後押しした。

内容を理解しやすくするために、本文(原文)を整えた後、訳文と共に読み仮名を振った。絵も全景のほか、拡大図などを挿入し、当時の服装や生活様式を伝えている。方丈記絵巻は方丈記で主流の「古本系統」ではなく、「流布本系統」に属するため、語句のわずかな差異や内容の相違を紹介することにも意義を感じたという。

田中さんは「人の目が気になり、他人と比較してしまうことも多い中、本を通して自分の価値を見いだしてほしい」と話している。

A5判、カラー112ページ。2530円。

(野上裕之)